

事業の背景・目的

国指定天然記念物「春採湖ヒブナ生息地」である釧路市の春採湖に生息するウチダザリガニを防除し、春採湖及び春採湖周辺の生物多様性の保全を図る。また、市民が特定外来生物についての関心を持ち、理解を深めてもらうため普及啓発を行う。

事業の内容

事業① 春採湖ウチダザリガニ捕獲事業

初年度の結果から、従来の方法よりも効率的に捕獲できることが確認できたため、引き続き初年度の方法でNPO法人に委託し効果的な防除活動を行った。



事業② 普及啓発事業

初年度の内容を継続しつつ、「まちづくり出前講座」では中学校で授業を行う等、内容や対象範囲を充実させた。



事業③ データ収集業務

防除活動による捕獲結果については、地域の有識者で構成される春採湖調査会に報告し、水草生育調査、水質調査など、他の調査項目と総合的に協議していただいた。

得られた成果

- ・ 7月と9月に湖全域140地点で各5日間、計10日間防除活動を行い、雄852個体、雌926個体、計1,778個体を捕獲し、捕獲地で殺処分した。
- ・ 同様の捕獲方法で作業を実施した昨年度（2,176個体）と比べるとやや少ない結果となったが、以前の方法で捕獲した一昨年度（1,022個体）と比べると多く捕獲しており、捕獲日数は2/3となったが、効率的に捕獲することが出来た。
- ・ 水草のマツモの生育範囲は昨年度よりも広がっていた。イトクズモの生育が36年ぶりに確認された。
- ・ 市民参加型イベントは、荒天により中止した。
- ・ 「まちづくり出前講座」では、2件、32名の市民に対し、春採湖にウチダザリガニが侵入したことによる生態系への悪影響について伝えた。参加者からは、捕獲後のウチダザリガニの処理や他の外来生物について質問いただき、積極的に受講いただいた。
- ・ 捕獲結果を春採湖調査会に報告し、捕獲期間等を変更後も捕獲圧は維持できており、今後も同様の方法で推移をみていくことが必要との意見が挙がった。

